

【法人の概要】

代表者名	理事長 大久保雅直		所管部(局)課	農政部畜産課	
所在地	山梨県北杜市小淵沢大平10061		電話番号	0551-36-3200	
ホームページURL	http://www.yatuboku.jp		E-mailアドレス	yatuboku@io.ocn.ne.jp	
資本金(基本財産)	10,000	千円	設立年月日	昭和52年3月23日	
主な出資者等	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		10,000 千円	100.0 %
	2			千円	0.0 %
	3			千円	0.0 %
	4			千円	0.0 %
	5			千円	0.0 %
	6			千円	0.0 %
	7			千円	0.0 %
	8			千円	0.0 %
	9			千円	0.0 %
	10			千円	0.0 %
	出資その他	団体(者)		千円	0.0 %
その他			千円	0.0 %	
			10,000 千円		
設立目的:	山梨県の子牛の生産、育成を振興し、もって畜産の安定発展に寄与すること。				
経緯概況等:	県営八ヶ岳牧場は、条例に基づき県の肉用牛生産基地として、肉用牛繁殖育成事業を行ってきた。 昭和52年:(財)山梨県子牛育成協会が設立され、協会は県から牧場管理業務の一部を委託された。 昭和60年:県営八ヶ岳牧場から、県立八ヶ岳牧場と改称し、協会は県から牧場の管理業務を全面委任された。 平成5年:県立まきば公園と天女山分場整備に伴い、協会は県からまきば公園の管理業務を委託された。 平成12年:堆肥処理施設の稼働により、堆肥の販売を開始。 平成13年:周年預託業務を開始。 平成18年:県立八ヶ岳牧場、県立まきば公園の指定管理者となっている。 平成23年:公益財団法人に認定された。				

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業1 八ヶ岳牧場管理受託業務	県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却 農家有家畜(牛・馬)の周年受託業務 草地等の維持管理業務。農家の巡回調査指導業務 肉用牛の改良増殖業務。家畜排泄物処理業務等	194,615	200,211	193,615
事業2 まきば公園管理受託業務	めん羊(サフォーク種)の増殖業務及びふれあい動物の飼養管理 公園施設、草地、植栽の維持管理 来園者の対応、各種イベントの開催	17,395	17,530	17,830
事業3				

【組織】

各年度体制	年度	令和 2 年度					令和 3 年度					令和 4 年度						
		職 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他	職 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他	職 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他		
役員等	理事(常勤)	1			1		1			1		1			1			
	理事(非常勤)	8		2		6	8		2		6	8		2		6		
	監事(常勤)	0					0					0						
	監事(非常勤)	2				2	2				2	2				2		
	評議員	5				5	5				5	5				5		
	計	16	0	0	2	1	13	16	0	0	2	1	13	16	0	0	2	1
職員	管理職	1	1				1	1				1	1					
	一般職員	20	20				20	20				19	19					
	臨時職員	2				2	2				2	4				4		
	非常勤職員	0					0					0						
	計	23	21	0	0	0	2	23	21	0	0	0	2	24	20	0	0	0
令和4年度 プロパー職員の 年齢構成 (令和5年4月1日現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計					平均年齢		平均年収			
	男性		3	4	5	3	2	17	役員勤	※				(千円)				
	女性		1	1		1		3	職員勤	※				(千円)				
	合計	0	4	5	5	4	2	20	職員勤	43				5,009				

※ 個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載。

【経営の状況】

(単位:千円)

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益	47	47	47	0
	受取会費・受取寄付金	0	0	0	0
	受託事業収益	212,010	217,742	215,073	△ 2,669
	自主事業収益	45,086	42,593	53,384	10,791
	受取補助金等	0	0	0	0
	その他の収益	2,671	2,724	1,595	△ 1,129
	経常収入 計	259,814	263,105	270,100	6,995
	事業費	243,662	241,694	260,533	18,839
	うち人件費	140,174	135,872	136,055	183
	管理費	11,360	11,181	11,323	142
	うち人件費	9,917	9,656	9,754	98
	経常支出 計	255,022	252,875	271,856	18,981
	当期経常増減額	4,792	10,230	△ 1,756	△ 11,986
	経常外収入	0	0	0	0
経常外支出	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	4,792	10,230	△ 1,756	△ 11,986	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	
正味財産期末残高	111,339	121,568	119,812	△ 1,756	

(単位:千円)

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
財務状況	流動資産	55,425	54,473	51,809	△ 2,664
	固定資産	116,598	131,711	133,785	2,074
	資産 計	172,023	186,183	185,594	△ 589
	流動負債	30,365	36,815	41,998	5,183
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	30,321	27,801	23,784	△ 4,017
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	60,686	64,616	65,783	1,167
	正味財産	111,337	121,568	119,811	△ 1,757
	うち基本財産への充当額	10,000	10,000	10,000	0
うち特定資産への充当額	57,304	72,329	54,439	△ 17,890	

(単位:千円)

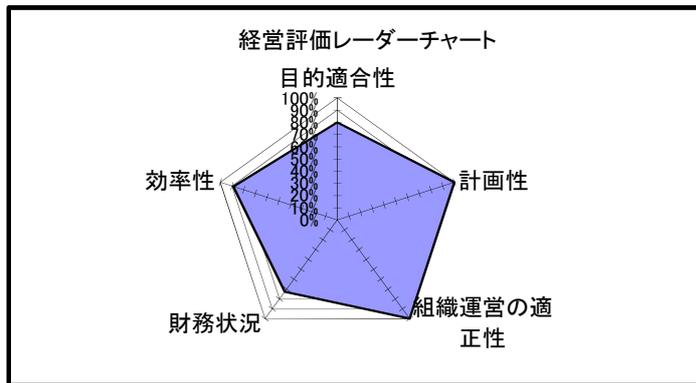
項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	0	0	0	0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費委託金	140,174	135,872	136,056	184
	人件費以外の委託金	71,836	81,870	79,017	△ 2,853
	委託金 計	212,010	217,742	215,073	△ 2,669
	県支出金 計	212,010	217,742	215,073	△ 2,669
県の財政的関与の割合(%)	81.6	82.8	79.6	△ 3.2	
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

【県の財政的関与の状況(令和3年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	該当なし
補助金(運営費)	該当なし
補助金(事業費)	該当なし
委託金	<p>県立ハヶ岳牧場管理委託費…農家家畜を受託放牧するとともに、県有牛を改良増殖・供給し、本県の畜産振興に資する。(R3委託料:193,615千円)</p> <p>県立まきば公園管理委託費…自然の中で動物とのふれあいの場を提供し、県民の畜産への理解を深め、県民の保養休養に資する。(R3委託料:17,830千円)</p> <p>死亡牛焼却処理業務委託費…西部家畜保健衛生所より県が行う牛海綿状脳症(BSE)検査後の死亡牛の受入及び焼却処理業務を受託(R3委託料:3,628千円)</p>
県債務負担実際残高	該当なし

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	8	80.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	10	100.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	32	72.7%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	16	88.9%
合計		21	92	76	82.6%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	県立八ヶ岳牧場では、農家家畜の受託管理並びに県肉用繁殖牛の改良及び子牛の売却を行い、本県畜産農家の経営安定に寄与するとともに、県立まきば公園では自然や動物とのふれあいを通じて、一般県民等に憩いの場を提供するなど、指定管理者として基本協定に基づき業務を適正に行っている。当該年度は、肉用牛において夏期に入牧希望が殺到したことに加え、冬期預託において新牛舎を有効活用したため、受託頭数は実頭数・延頭数ともに過去最高となり、目標頭数(120,000頭)を大幅に上回った。また、まきば公園は、新型コロナウイルス感染拡大により来園者は目標を大幅に下回った。
計画性	毎年度、事業計画を設定し、より効率的な管理運営と経営の安定を図っている。また、計画と実績の比較分析を行い、業務・経営の改善に努めている。
組織運営の適正性	適正な運営を行うため、組織や職員数等の見直しを行っている。また、職員間のミーティングによる意思の疎通やモチベーションの向上を図るなど、内部管理を適切に行い、透明性の高い健全な運営に努めている。事業活動内容、財務状況についてはホームページで公開している。
財務状況	牧場利用頭数が増加したことにより利用料収入は増加したが、冬期貯蔵飼料の生産量が足りず、不足分を購入粗飼料に依存せざるを得なかったことや、配合飼料、肥料等の高騰により経費が大幅に増加したことにより、一般正味財産増減額は1,756,671円の赤字となった。
効率性	従前より管理運営の効率化を図ってきたところである。管理施設は家畜を飼養している施設であり、年間を通じて終日利用しており効率的に活用されている。計画的な人員管理により人件費総額を抑制するなど、効率的運営を進めている。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、まきば公園の入園者数が減少したが、農家家畜の延べ受託頭数が増加したため、職員一人当たり施設等利用人数は、対前年度比で若干改善した。
総合的評価	優良素牛の売却等により甲州牛の生産基盤強化に寄与するとともに、受託家畜の受入増頭・繁殖管理の充実等により利用者ニーズに応じており、利用者のアンケート調査でも高い満足度が得られている。また牧場利用農家からは規模拡大に伴い労力軽減や生産効率の向上に向け、冬期預託飼養拡大を望む要望も多く、可能な限りこれに応じていく。また、今後も配合飼料、肥料等の高騰が想定されることから、更なる経費節減に努めていく必要がある。



対応策	八ヶ岳牧場業務については、県有牛の改良や優良子牛の生産について、性選別精液や受精卵移植の活用など繁殖技術や飼養管理技術の向上を図り、利用者のニーズにあったサービスを提供することで、更なる向上に努める。まきば公園業務については、新型コロナウイルス対策を徹底する中で、サービスの向上や園内の美化に努めるとともに、ホームページ等による情報発信を積極的に行い、利用者の拡大を図る。施設・車両機械等については、計画的な更新を県に要望していく。今後も飼料や肥料等の高騰が想定されることから、経費節減に努め、公益法人として、適切な法人運営とより一層の合理的経営を進めていく。
-----	--

【法人担当部局の所見】：(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	本県における大家畜の畜産振興を推進するため、県条例並びに当協会設置目的に従い、適切に受託事業等を実施しており、目的に適合している。 飼料価格等の資材が高騰する中で受託頭数が過去最多頭数となり、経営が逼迫している県内畜産農家の要望に応えられていることは評価できる。また、まきば公園については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年の約半分の来園者数となった。感染防止対策を講じながらのイベント再開やSNS等を活用した積極的な広報活動で来園者の確保に取り組む必要がある。
計画性	経営計画・年次計画に基づいて、適切に管理運営が行われている。また、事業分析により業務改善に努めているが、今後も適切な管理運営を継続する必要がある。
組織運営の適正性	組織運営とリスク管理に必要な体制整備が行われ適切に運用されている。事業活動内容や財務状況もホームページにて公開されている。引き続き、業務上のリスクの共有・対応方法の定期的な検討や、法人事業・イベント等の積極的な情報発信、適正な組織運営に努める必要がある。
財務状況	受託頭数が過去最多となった事から利用料収入は大幅に増額したが、飼料や肥料価格が全国的に高騰したことから正味財産増減額がマイナスとなった。今後も価格高騰は続くことが見込まれることから、自給粗飼料の安定確保や経費削減に努め、収支状況の改善に取り組む必要がある。
効率性	まきば公園の来園者数は例年の半数であったが、ハケ岳牧場の受託頭数は増加したため、職員1人当たりの施設等利用人数は昨年度と比較し改善された。まきば公園においては、SNS等を活用した積極的な広報活動やイベントの順次再開により来園者の確保に努める必要がある。また、ハケ岳牧場においても、未利用農家へのPR活動による預託頭数の維持・確保に引き続き努める必要がある。
総合的評価	設立目的に沿った事業を実施しており、適切な法人運営が行われていることは評価出来る。今後もより一層の合理的経営に努め健全な経営を維持すること。 全国的な飼料価格高騰により畜産農家の経営が苦しい中、受託頭数が過去最高となり、畜産農家の負担軽減を図る公共牧場としての役割を果たしていることは評価できる。今後は、ヨーネ病患畜の早期発見や衛生対策を徹底することでヨーネ病清浄化農場への早期復帰に取り組み、利用者の要望に応えながら、自給粗飼料の安定確保に努め、収支状況の改善に取り組む必要がある。まきば公園利用者からの評価は良好であるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から夏休み期間の約1ヶ月間、臨時休園となったため、来園者数は目標の半数となった。新型コロナウイルス感染防止策を講じながら目標年間来園者数を確保できるよう、イベント充実に努めるとともに、PR活動を積極的に行う必要がある。

【総合評価】：(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	<p style="text-align: center;">A</p> <p>得点率 82.6 %</p> <p>警戒指標数 0</p>	<p>A 得点率80%以上かつ警戒指標なし</p> <p>B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1</p> <p>C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2</p> <p>D 得点率60%未満または警戒指標が3以上</p>
総合的所見	<p>・ハケ岳牧場及びまきば公園の指定管理者となっており、令和3年度においては、県からの指定管理料が収入全体の78%程度を占めている。</p> <p>・ハケ岳牧場における家畜の受託頭数が過去最多となり、自主事業収益は増額となったが、飼料等の高騰から経常費用が増大したため、当期一般正味財産増減額は赤字となり、財務状況は悪化した。</p> <p>・上記過去最大の受託頭数は、目標数値を上回るものであり、県内畜産農家の安定発展に寄与するため、その負担軽減を図る公共牧場としての法人目的に適っており、目的適合性の評点が上昇している。</p> <p>・受託頭数の増加から職員1人当たり施設等利用人数が増加し、効率性の評点も上昇したが、まきば公園の入園者数は新型コロナウイルス感染症の影響から減少したため、近隣の観光施設と連携した情報発信を活用するなどして集客力の向上に取り組む必要がある。</p> <p>・今後、引き続き県有牛の改良や優良子牛の生産・販売により甲州牛の生産基盤強化に努めるとともに、飼料価格高騰が続く中で受託家畜や冬期預託も含めたニーズ拡大に対し、極力農家の経済負担を伴わず応えていくためにも、自給粗飼料の安定確保に努めるなど効率的な運営に努める必要がある。</p>	



【総合評価に対する今後の対応方針】

<p>・ハケ岳牧場、まきば公園の指定管理者として、基本協定及び県出資法人経営健全化プランに基づき、健全な法人運営並びにより一層の効率的な業務運営に努めていく。</p> <p>・ハケ岳牧場においては、飼料価格の高騰が続く中、引き続き畜産農家の経営安定に貢献できるように、自給粗飼料の安定確保や経費の更なる削減に努めていく。併せて、衛生対策を徹底することでヨーネ病再発防止に取り組んでいく。</p> <p>・一方、まきば公園については、近年、新型コロナウイルス感染症の影響で来園者数が大幅に減少したが、今後、コロナ対策の見直しによりハケ岳南麓地域の観光客の増加が見込まれることから、近隣施設と連携を図る中で情報発信を行い、来園者数の回復に努めていく。</p>
